

- 2010 1 焦点「国際的に活躍できる研究者をどう育てるか—「看護学国際人育成教育プログラム」から考
(43 巻) える」
「国際的に活躍できる人材の育成を推進する教育」 佐々木明子, 井上智子
「e-learning システムの導入とこれからの運用」 田沼寮子, 中島淑江, 山崎智子, 井上智子
「国際交流が看護系大学院にもたらす意義」 山本則子
海外研修から得た学び
①オーストラリアにおける高齢者の疼痛管理 高井ゆかり
②フィンランド海外研修から得られた保健師の活動に関する学び 滝澤伸憲
海外大学との提携と国際共同研究への基盤づくり
【日本の立場から】海外協定大学との活動の現状と課題 廣瀬たい子, 佐々木明子, 大久保功子
【海外の立場から】Strategic Partnership Developed IN 10 Years-Co-operation in Research and Education between Seinäjoki University of Applied Sciences and Tokyo Medical and Dental University Helli Kitinoja
【海外の立場から】[翻訳] 10 年間にわたり開発した戦略的な提携—セイナヨキ応用科学大学と東京医科歯科大学間での研究・教育における協力 Helli Kitinoja, 佐々木明子, 田沼寮子, 中島淑江
Academic Writing and Publishing Issues-A Seminar to Support Postgraduate Nursing Students' Endeavours to Publish in International Journals Christen Erlingsson
研究活動に必要なアカデミックスキル—DVD 教材の製作を通じて
①語学力・コミュニケーションスキル 佐々木明子, Christen Erlingsson, Bridge 志保, 田沼寮子, 中島淑江
②国際学会でのプレゼンテーションスキル 前田留美, 丸光恵, 森田久美子, 田沼寮子, 中島淑江, 佐々木明子
コラム
「オレゴンヘルスサイエンス大学への研修に向けて—海外留学のためのネゴシエーション」 中山かおり
「ハートフォードシェア大学への研修までのプロセス」 池田悦子
「DVD 教材の製作に加わって 村松三智
-
- 2 焦点「理論の開発・活用のための中範囲理論—看護知識の構造から考える」
「The Spiral of Nursing Theory — “Theories are nets : only they who cast will catch.”」 Pamela G. Reed
翻訳「看護理論のスパイラル—“理論は捕獲網である—投げ入れた者だけが獲物を手にする。”」 Pamela G. Reed, 星美和子, 伊豆上智子
コラム「「メタセオリー」「中範囲理論」のクラス概要」 金井 Pak 雅子
「看護知識の構造における中範囲理論の位置づけ」 星美和子, 林さとみ, 金井 Pak 雅子
中範囲理論開発に向けた概念分析
イントロダクション 林さとみ, 星美和子, 金井 Pak 雅子
(1) risk perception (リスク認識) の概念精査—risk perception の概念開発に向けて 林さとみ
(2) スピリチュアリティ 星美和子
(3) ワーカーエンパワーメント 金井 Pak 雅子
「3つの概念分析のまとめ」 林さとみ, 星美和子, 金井 Pak 雅子
-
- 3 焦点「EBP を根づかせていくための概念モデルと方略(I) —〈概念・研究編〉EBP の概念とその実行に向けた方略」
「EBP (evidence-based practice) の概念とその実行 (implementation) に向けた方略」 松岡千代
「EBP 実行を促進するための TRIP 介入モデル—組織的介入モデルとしての概要とその効果」 松岡千代
「Improving Continence and Pain : The M-TRAIN Intervention — Multi-level Translation Research Application in Nursing Homes (M-TRAIN)」 Janet P. Specht, Paula Mobily, Jae-Eun Russell
翻訳「M-TRAIN 介入モデルによる失禁および疼痛の症状緩和—ナースিংホームにおける多面的トランスレーショナル・リサーチの適用」 Janet P. Specht, Paula Mobily, Jae-Eun Russell, 中筋美子, 松岡千代

- (43 巻) 3 原著論文「朝の足浴が高齢患者の目覚め感, 倦怠感に及ぼす効果—女子学生を対象にした基礎研究と入院中の高齢者を対象にした臨床研究の結果から」 新田紀枝, 檜垣可那, 池美保, 熊谷由加里, 西尾善子
-
- 4 焦点「EBP を根づかせていくための概念モデルと方略(Ⅱ)—〈環境整備・実践編〉」
 「Strategies for Nursing Leaders to Promote Evidence-Based Practice」 Laura Cullen
 翻訳「看護リーダーが EBP (evidence-based practice) を推進していくための戦略」 Laura Cullen, 坂下玲子
 コラム「Iowa 大学病院看護部における EBP 推進の現状と日本の課題」 松岡千代
 「臨床で EBP を推進するための「実践者主導モデル」—IOWA モデルと AHRQ モデル」 松岡千代
 IOWA モデルによる実践変革
 「Double Gloving to Minimize Sharps Injuries in the Operating Room」 Victoria Steelman, Lori L. Stebral
 翻訳「手術室における傷害を最小限に抑える手袋の二重装着」 Victoria Steelman, Lori L. Stebral, 坂下玲子
 「EBP 実行のための EBP ガイドライン—作成方法と意義」 松岡千代
 「看護の質向上に寄与する EBP が根づくために—実践と研究の循環」 坂下玲子
-
- 5 焦点「看護ケアの質評価と改善—研究の成果と今後の発展に向けて」
 「看護の質を示すさまざまな指標」 鄭佳紅
 NDNQI® について
 「Development of Nursing Quality Indicators for the National Database of Nursing Quality Indicators® (NDNQI®)」 Nancy Dunton
 翻訳「全米看護の質指標データベース (NDNQI®) のための看護の質指標の開発」 Nancy Dunton, 坂下玲子
 「Nursing Leadership at Its Visionary Best」 Isis Montalvo
 翻訳「時代を超える看護リーダーシップ」 Isis Montalvo, 坂下玲子
 看護ケアの質評価・改善システムについて
 座談会「日本における看護の質改善システムを確立するために—看護 QI システムでできること」 上泉和子, 片田範子, 内布敦子, 坂下玲子, 鄭佳紅, 永池京子
 「看護 QI 開発の歴史」 上泉和子
 「構造評価」 坂下玲子
 「過程評価」 鄭佳紅, 村上真須美
 「アウトカム評価」 桜井礼子, 福田広美, 栗屋典子
 「看護実践過程のテキストマイニング」 新居学
 「看護 QI システムにおける評価報告書とリコメンデーションの作成」 内布敦子
 「The Knowledge Based Nursing Initiative (KBNI)—Linking Research to Practice and Practice to Research through Electronic Health Information Systems」 Norma M. Lang, Sally P. Lundeen
 翻訳「知識に基づく看護イニシアティブ (KBNI)—研究を实践へ, 実践を研究へ結びつける電子医療情報システム」 Norma M. Lang, Sally P. Lundeen, 坂下玲子
-
- 6 焦点「看護学における Translational Research—振動による褥瘡の治療促進をめざした機器開発・検証のプロセス」
 「看護学 Translational Research の構想とプロセス—私たちがめざすもの」 真田弘美, 長瀬敬, 須釜淳子
 ニーズの把握「寝たきり高齢者の下肢褥瘡発生要因」 大桑麻由美, 須釜淳子, 真田弘美, 大江真琴
 シーズを見いだす・病態メカニズムの解明「振動による微小循環変化のメカニズム」 市岡滋, 横川秀樹, 関谷直美, 仲上豪二朗, 真田弘美
 仮説の検証「振動による血流促進効果の検討—健常人を対象とした実験」 仲上豪二朗, 浦崎雅也, 北川敦子, 真田弘美
 証明—振動による効果の検証: 臨床試験パート 1「振動による StageI 褥瘡の治療促進効果」 須釜淳子, 嵐碧
 証明—振動による効果の検証: 臨床試験パート 2「壊死組織を有する褥瘡に対する振動の効果」 宮永葵子, 須釜淳子

- (43 巻) 6 人材育成: 臨床—教育プログラム開発・検証「重度褥瘡ケアにおける高度創傷管理技術教育のプログラム開発とその評価」 貝谷敏子, 真田弘美, 須釜淳子, 宮地良樹, 館正弘, 長瀬敬, 松山裕
-
- 7 焦点「新たな創造に向けた看護研究—先端的試みをどう活かすか」
 先端研究を看護実践に活用する 川口孝泰
 先端研究を応用したバイタルサイン測定法の開発—看護情報学の確立に向けた取り組み 川口孝泰, 白鳥和人
 知覚を客観的に評価する—看護実践のエビデンスを確立するために 佐伯由香
 臨床応用に向けた遠隔看護(テレナーシング)の実際と意義 東ますみ
 ICT(information and communications technology)を活用した健康支援プログラムの開発—人工股関節全置換術を受ける患者の環境移行に着目して 佐藤政枝
-
- 2011 (44 巻) 1 焦点「現象学的研究における「方法」を問う」
 「現象学的看護研究とその方法—新たな研究の可能性に向けて」 榊原哲也
 「開かれた現象学的研究方法」 松葉祥一
 「理解について—質的研究の前提として」 家高洋
 「患者を1人の人として理解する—Eさんの生活経験の現象学的記述より」 石田絵美子
 「看護ケアの実践知—「うまくできない」実践の語りが示すもの」 西村ユミ
 「「痛み」の理解はいかに実践されるか—急性期看護場面の現象学的記述」 西村ユミ, 前田泰樹
 「潜在的な視線触発と純粋な超越論的テレパシー—初期西村ユミのポテンシャル」 村上靖彦
-
- 2 焦点「看護学におけるケアリングの現在」
 「看護学におけるケアリングの現在—概説と展望」 筒井真優美
 「ケアリングの研究動向」 山内朋子, 筒井真優美
 「Watson によるヒューマン・ケアリング理論の発展と意義」 江本リナ
 「ケアリングの測定用具」 宮脇美保子
 「ケアリングをいかにして教育するか」 安酸史子
-
- 3 焦点「慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」—ライフストーリーインタビューは何を描き出すか」
 「慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」に関する看護学的省察」 黒江ゆり子
 「慢性の病いにおけるライフストーリーインタビューから創生されるもの」 黒江ゆり子, 寶田穂, 藤澤まこと
 「慢性の病いとともにある生活者を描く方法とライフストーリーインタビュー—Robert Atkinson の考え方」 黒江ゆり子, 北原保世, 慢性の病いにおける他者への「言いづらさ」についての研究グループ
 7つのライフストーリー
 1. ミトコンドリア脳筋症患者の在宅療養における主介護者であるAさんのライフストーリー 森谷利香
 2. パーキンソン病をもつBさんのライフストーリー 中岡亜希子
 3. 精神障がいに対するセルフスティグマから解放されたCさんのライフストーリー 寶田穂, 古城門靖子
 4. HIV 感染症をもつDさんのライフストーリー 市橋恵子
 5. 2型糖尿病のEさんのライフストーリー 河井伸子
 6. 1型糖尿病のFさんのライフストーリー 黒江ゆり子
 7. クローン病のGさんのライフストーリー 田中結華
 ライフストーリー解釈
 1. 7つのライフストーリーに描き出された他者への「言いづらさ」 黒江ゆり子, 寶田穂, 市橋恵子, 森谷利香, 中岡亜希子, 古城門靖子, 田中結華, 河井伸子
 2. 「言いづらさ」は何を意味するのか 寶田穂, 黒江ゆり子, 市橋恵子, 中岡亜希子, 森谷利香, 古城門靖子, 田中結華
-
- 4 焦点「C.T. Beck 氏の研究から考える看護における研究と方法」
 「Meta-synthesis : Helping Qualitative Research Take Its Rightful Place in the Hierarchy of Evidence」 Cheryl Tatano Beck
 翻訳「メタ・シンセシス—質的研究をエビデンス階層の正しいレベルに位置づけるのに役立つ方法」 Cheryl Tatano Beck, 中木高夫, 黒田裕子

- (44 巻) 4 翻訳「質的および量的アプローチを用いた研究プログラムの発展—Developing a Research Program Using Qualitative and Quantitative Approaches」 Cheryl Tatano Beck, 本田育美, 原沢(田中)優子, 和田恵美子, 小倉之子, 奥村(高田)美奈子, 中木高夫
研究者としての歩み「C.T. Beck 氏の研究からみえてくるもの—文献レビューから考える」 黒田裕子
量的研究と質的研究
「「概念」の数量化—尺度開発の基本的な考え方」 高木廣文
「看護における質的研究方法の現在—進化の観点を踏まえて: Margaret Newman の「ニューマン・プラクシス」を中心に」 遠藤恵美子
「質的研究は研究する人間をエンパワーできるか—グラウンデッド・セオリー・アプローチの多様化を通して」 木下康仁
産科・母性領域からのアプローチ
「産褥期のうつ病の研究概観—スクリーニング尺度の開発と課題」 岡野禎治, 國分真佐代, 南田智子
「出産後うつ状態のリスクを妊娠期に予測する—対話を大事にした C.T. Beck 氏の方法を中心に」 池田真理, 上別府圭子
-
- 5 焦点「看護学研究発展の軌跡—研究方法論に着眼して」
「精神障害をもつ人の体験世界の理解に基づく看護研究方法の模索」 岩崎弥生
「対象理解に着眼した看護学研究方法論の探究」 正木治恵
「成人看護学領域における看護実践モデルを開発するための研究方法論の探究」 眞嶋朋子, 山下亮子, 小坂美智代
「健康づくり・地域づくりに関する看護学研究と研究方法論の探究」 宮崎美砂子
「母性看護学領域に根ざした研究方法論の探究」 森恵美
-
- 6 焦点「看護と工学の連携—加速度センサの開発を出発点として」
「看工連携によるイノベーション—看護技術習得に活かす試み」 金井 Pak 雅子
「看護と工学の連携による研究動向」 前田樹海
「工学の立場からみた看護ケア」 太田順
研究の実際—加速度センサを用いた看護技術教育支援システム開発のプロセス
1. 加速度センサが識別可能な看護技術の特定 北島泰子, 平田美和, 相田京子, 高畠有理子, 中村充浩, 前田樹海, 金井 Pak 雅子
2. 臨床看護師における車椅子移乗介助技術の現状の探究 平田美和, 相田京子, 高畠有理子, 中村充浩, 北島泰子, 前田樹海, 金井 Pak 雅子
3. 教科書に記載された車椅子移乗介助技術の比較検討—ビデオ映像と加速度センサを用いて 相田京子, 高畠有理子, 中村充浩, 北島泰子, 平田美和, 前田樹海, 金井 Pak 雅子
座談会「看護と工学の連携がもたらす可能性」 金井 Pak 雅子, 桑原教彰, 前田樹海, 太田順
-
- 7 焦点「Good Nurse 研究にみる東アジア国際共同研究の意義・方法論・成果」
「東アジア Good Nurse 研究の船出と推進, 成果」 小西恵美子
「van Kaam の現象学的手法と Good Nurse 研究—徳の倫理における異文化比較研究方法論」 八尋道子, Samantha M.C. Pang
「データをみる視点と Good Nurse 研究—患者—看護師関係の日台比較から」 蔡小瑛
「Good Nurse 研究における質問紙開発と質問紙調査による国際比較」 和泉成子
「Values for Ethical Nursing: Some Comments on the Good Nurse Study」 Douglas P. Olsen
翻訳「看護倫理のための価値—西洋からみた Good Nurse 研究」 Douglas P. Olsen, 八尋道子, 和泉成子
「Good Nurse 研究を振り返る—台湾チームから」 周雪静, 蔡小瑛
「Good Nurse 研究を振り返る—日本チームから」 田中真木
-
- 2012 (45 巻) 1 特集「研究者育成のための質保証におけるグローバルスタンダード」
「研究者育成の質保証の現状と課題」 牧本清子
「研究者育成の質保証に向けた日米の大学院教育の相違—大阪大学大学院保健学専攻における取り組み」 牧本清子
「米国における研究者育成の質保証の現状と課題—ワシントン大学を中心に考える」 近藤暁子
「英国の大学におけるリサーチスチューデント育成のためのサポートシステム—マンチェスター大学を例に」 小松容子

- (45 巻) 1 「フィンランドにおける看護研究者育成の現状と課題」 佐々木明子
「タイにおける看護研究者育成の質保証の現状と課題」 山本あい子, 岩國亜紀子
「JCEBP の活動からわが国の研究と研究者育成の質保証を考える」 伊藤美樹子, 山川みやえ, 心光世津子, 竹内佐智恵
-
- 2 特集「研究の普及を支える基盤としての論文執筆」
「研究の普及を支える基盤」 前田樹海
「看護系論文の執筆スタイルの現状と展望—看護研究の普及を支えるために研究者と研究指導者, 看護系学会ができること」 谷津裕子, 中木高夫
「論文執筆マニュアルを研究にいかすために—主要な 3 つのマニュアルの比較からみえてくるもの」 江藤裕之
-
- 3 特集「質的研究を学び合う JRC-NQR の実践」
「質的研究の学び舎 JRC-NQR」 谷津裕子
「看護学の知の母胎としての「語らいの場」」 中木高夫
「『看護研究』誌にみる日本の質的研究の変遷—過去約 40 年間におけるレビュー」 住谷ゆかり
「質的研究におけるインタビューの捉えと実践」 深谷基裕
「エスノグラフィー—理論的パースペクティブの変遷と看護研究における可能性」 阿部利恵
「言説分析について」 永田明
「研究論文の投稿から掲載まで—特に査読後の心境の変化に焦点を当てて」 千葉邦子
「システムティックレビューにおけるエビデンス統合とその解釈的アプローチ」 北素子
「社会構成主義の実践としての対話—Gergen の『あなたへの社会構成主義』から」 濱田真由美
「質的研究の統合—メタ・シンセシスに焦点を当てて」 谷津裕子, 濱田真由美
「言語学と質的看護研究—JRC-NQR と私」 江藤裕之
-
- 4 特集「経験を記述する現象学と質的研究」
「経験の編成を記述する」 前田泰樹
「経験を記述するための言語と論理—身体論からみた質的研究」 村川治彦
「経験を理解するという探究の経験を通しての記述」 大久保功子
「緩和ケア病棟における看取り—死の直後の実践経験」 守田美奈子
「看護学生の「患者理解」という経験に関する記述—ガダマーの解釈学を手がかりに」 前川幸子
「うつ病という病いの経験を語ること／記述すること」 近田真美子
「HIV 感染した血友病患者の経験—経験の捉えなおしに焦点を当てて」 大村佳代子
「時間経験と協働実践の編成—急性期病棟の看護に注目して」 西村ユミ, 前田泰樹
「事象に示される通りに—フィールドワークという実践」 西村ユミ, 前田泰樹
-
- 5 特集「北欧ケアとは何か看護研究への示唆」
「北欧ケア研究のために—もう 1 つの現象学的方法のアプローチ」 浜渦辰二
「患者に焦点を当てることは生活世界に焦点を当てることである—ケア学というパースペクティブ」 カーリン・ダールベリ, 浜渦辰二, 川崎唯史
「北欧ケアの思想的な拠り所—問いとしての「福祉」」 竹之内裕文
「ホスピス・緩和ケアにおける生活世界ケア—スウェーデンとスコットランドのホスピス・緩和ケア病棟の視察を通して考えたこと」 齊藤美恵
-
- 6 特集「ケアリングが築く未来国際ケアリング学会の成果」
名誉会長講演「私たちのヒューマニティの心に触れる—平和へのカリタスの道」 Jean Watson, 稲岡文昭, 筒井真優美, 江本リナ
教育講演「ナラティブを通してケアリングの心を開く—1 人の語り手は世界を形成する(ホピ族の言葉)」 Christopher Johns, 田村由美, 筒井真優美, 江本リナ
教育講演「ナイチンゲールの遺産—ケアリングと平和に向けた統合看護・ホリスティック看護のサイエンスとアート」 Barbara Dossey, 戸村道子, 筒井真優美, 江本リナ
会長講演「看護マネジメントにおけるケアリング」 新道幸恵
教育講演「看護教育におけるケアリングと平和」 安酸史子
-
- 7 特集「臨床看護師が取り組む研究モデルの探究」
「本特集の構成について」 坂下玲子
「臨床看護研究に関する文献検討」 宇多絵里香
「臨床看護師が取り組む看護研究の実態」 坂下玲子, 西平倫子, 西谷美保
「なぜ, 病院は看護研究に取り組むのか」 宮芝智子

- (45 巻) 7 「臨床から発表される論文の検討」 北島洋子
「米国における臨床看護研究の現状—スタッフナースへの研究活動支援プログラムに着目して」 岡田彩子
「Evidence-Based Patient Management, Micro-Evidence, and Micro-Trialing」 Ivo Abraham, Karen MacDonald
翻訳「エビデンスに基づく患者マネジメント, マイクロ-エビデンスとマイクロトライアリング」 Ivo Abraham, Karen MacDonald, 坂下玲子
「研究モデルの提案」 坂下玲子
「意義ある臨床看護研究のあり方—まとめにかえて」 坂下玲子, 内布敦子, 片田範子
-
- 2013 (46 巻) 1 特集「被ばく医療における看護の人材育成と研究—弘前大学大学院被ばく医療人材育成プロジェクト」
「被ばく医療人材育成プロジェクトの概要」 對馬均
「緊急被ばく医療に関連した看護研究の動向」 富澤登志子, 漆坂真弓, 北島麻衣子
「プロジェクトにおける体制づくりと研修の展開, 諸機関との連携」 木立るり子, 齋藤久美子, 古川照美
「原子力災害における看護活動と福島第一原子力発電所事故への対応」 野戸結花, 北宮千秋
「被ばく医療における人材育成のこれから」 西沢義子
プロジェクトにおける被ばく医療教育
1. 学部, 大学院, 現職者における被ばく医療教育の概要—大学院を中心に 一戸とも子, 木立るり子
2. 現職者を中心とする被ばく医療教育 井瀧千恵子, 北嶋結
海外における被ばく医療教育—研修から得た学び
1. 米国 REAC/TS における研修を通して 高間木静香, 横田ひろみ
2. チェルノブイリ原発事故後 26 年のいまを学ぶ 北宮千秋
3. フランスにおける被ばく医療体制と教育 野戸結花
4. 米国 UCSF 研修を通して, 米国のがん放射線治療と看護を考える 會津桂子, 北島麻衣子, 安杖優子
-
- 2 特集「看護学における事例研究法—新たな研究デザインへの可能性」
「事例研究法における認識論的課題」 内田雅子
「時間的経緯を踏まえた看護学における事例研究法の意義に関する論考」 黒江ゆり子
【看護実践における事例研究】事例報告から事例研究へつなぐプロセス
1. 研究課題の明確化 伊波早苗
2. 事例研究におけるデータ収集と分析 東めぐみ
【看護実践における事例研究】事例研究の実際
1. 看護実践者が行なう事例研究の一試案—糖尿病看護における待つ看護の検討 東めぐみ
2. 2 病院に通院する複合疾患患者の心不全のコントロールと生活調整 仲村直子
3. C 型肝炎患者の不確実性の受けとめの変化プロセスと支援の検討 長谷佳子
【看護実践における事例研究】
「倫理的課題を乗り越えた先にあるもの」 小長谷百絵
「実践知につなぐ事例研究—事例の事例研究から複数事例研究へ」 木下幸代
「看護研究, 事例研究法における倫理—弁護士の視点から」 増田聖子
「これからの事例研究法の意義と可能性—事例研究会の取り組みを通じて」 野並葉子
-
- 3 特集「認知症の当事者研究のために—老年看護学の視座を拓く」
「なぜ, 認知症の当事者研究なのか—認知症ケアの歩みと未来」 中島紀恵子
「認知症の当事者研究とは何か—超高齢社会の生き方・看護・研究の共創に向けて」 永田久美子
「医師の立場からみた認知症の当事者研究」 木之下徹, 水谷佳子, 安田朝子, 本多智子
「ドキュメント認知症当事者研究の誕生—芋虫が蝶に変わるように」 川村雄次
「認知症の本人と共に生きるケアの実践—センター方式の取り組みを中心に」 櫻井記子
「当事者と共につくる個別ケアと地域包括ケアのダイナミックな連動—行政事務職の立場から考える」 稲垣康次
座談会「認知症の当事者研究から見えてくるもの」 中島紀恵子, 永田久美子, 木之下徹, 稲垣康次, 川村雄次, 櫻井記子
講演「認知症と生きる」 クリスティーン・プライデン, 馬籠久美子

- (46 巻) 4 特集「質的研究方法を用いた博士論文作成指導の技法—メンタリングプロセスに焦点を当てて」
 「本研究のこれまでと概要」 萱間真美
 「質的研究を行なう博士課程の学生指導」 Christine A. Tanner, 萱間真美
 「博士論文作成指導におけるメンタリングプロセス—『Journal of Nursing Education』への投稿を通じて」 萱間真美, グレグ美鈴, 麻原きよみ, 山本則子, 大熊恵子, 太田喜久子, 木下康仁
 「博士論文の指導と審査, および分析基礎力の指導例」 木下康仁
 「質的研究の経験から—論文指導, 学習のヒント」 山本則子
 ディスカッション「質的研究方法を用いた博士論文作成指導において何が重要か」 中山洋子, Christine A. Tanner, 山本則子, 木下康仁, 萱間真美, 大熊恵子, グレグ美鈴, 麻原きよみ
 「ディスカッションへのコメント」 麻原きよみ
 「博士論文作成指導に関する今後のあり方—私はこう考える(1)」 グレグ美鈴
 「博士論文作成指導に関する今後のあり方—私はこう考える(2)」 中山洋子
-
- 5 特集「看護研究におけるテキストマイニング(I)」
 「看護の言葉をマイニングする—テキストマイニング研究概論」 服部兼敏
 「テキストマイニングの看護研究における活用」 いとうたけひこ
 「統合失調症当事者の語りのテキストマイニング—闘病記のタイトル分析を中心に」 小平朋江, いとうたけひこ
 「「乳がん研究の動向」と「患者の語り」のテキストマイニング活用例」 城丸瑞恵, 水谷郷美, いとうたけひこ, 門林道子, 佐藤幹代, 小平朋江, 本間真理
-
- 6 特集「看護研究におけるテキストマイニング(II)」
 「ソーシャルメディア上のビッグデータを分析して—乳児をもつ母親の関心事」 井田歩美, 猪下光
 「テキストマイニングによる成功率の高い禁煙プログラムの会話構造の特徴」 大野佳子, 磯村毅
 「チーム医療をテキストマイニングする—地域での栄養サポートチームにおける歯科専門職の役割に注目して」 柴崎美紀, 小原由紀, 澁谷英介, 本田彰子
 「国際看護学への挑戦をテキストマイニングする」 西川まり子, 村田直己, 小櫻愛美
-
- 7 特集「Person-centred Care の理論の現状と看護研究としての展望」
 「Person-centred Care の理念と動向」 鈴木みずえ
 「Person-centred Care をめざした認知症ケアマッピング(DCM)の理論と海外の動向」 水野裕
 「Person-centred Care をめざした認知症ケアマッピングにおける研究の動向」 田島明子, 鈴木みずえ
 「ケアスタッフの Person-centred Care の意識や実践を測定するための尺度の開発に関する研究の動向」 内田達二, 鈴木みずえ
 「地域における認知症ケアマッピング(DCM)を用いた施設間相互評価の有効性」 桑野康一, 鈴木みずえ, 下山久之, 遠藤英俊
 「急性期病院における Person-centred Care をめざした高齢者集団ケアの取り組み—認知症ケアマッピング(DCM)の導入と展開」 吉村浩美, 鈴木みずえ, 高木智美, 江上直美
-
- 2014 (47 巻) 1 特集「看護学において若手研究者をどう育てるか? (I)」
 「将来の看護学を構築する卓越した若手研究者をどう育てるか」 吉沢豊予子
 「アジアにおける若手研究者育成の方略」 牧本清子
 学協会, 大学院の立場から若手研究者の育成を考える
 「日本学術会議, 日本看護科学学会の立場からの提言—課題と展望」 小松浩子
 「看護学研究者をどう育てるか?—日本看護研究学会の見解と方針」 中木高夫
-
- 2 特集「看護学において若手研究者をどう育てるか? (II)」
 「若手研究者育成の歴史を紐解く—日本学術会議若手アカデミーの活動と看護界の展望」 西村ユミ
 「若手看護学研究者としてどう育っていくか?—日本看護科学学会研究・学術情報委員会の若手調査に携わった立場から」 深堀浩樹
 座談会「若手研究者が考えていること—“看護学”から何を創造するか?」 落合亮太, 濱吉美穂, 佐藤一樹, 坂井志織, 西村ユミ, 吉沢豊予子

- (47 巻) 3 特集「Mixed Methods Research—その意義と可能性」
 「Mixed Methods Research の新たな幕開け」 抱井尚子
 「Mixed Methods Research—覚悟をもって」 森岡崇
 「Mixed Methods in Nursing Research : An Overview and Practical Examples」 Ardith Z. Doorenbos
 翻訳「看護研究における混合研究法—概観と実践例」 Ardith Z. Doorenbos
-
- 4 <増刊号特集>1. 博士論文を書くということ—あのときの問いといまの問い」
 「博士号の取得までとその後—看護学研究者のよりよい育成環境づくりをめざして」 山本則子
 「繰り返される対話—新たな知の創造に挑む」 池添志乃
 「問うこと, 追い求めること, 貢献すること」 大久保暢子
 「循環器看護の知識体系を構築していくために」 岡田彩子
 「「学び方を学ぶ」博士後期課程」 川名るり
 「2つの博士課程で学んだ経験」 川原由佳里
 「人々の日々の暮らしと健康へのまなざし」 駒形朋子
 「出帆—看護に必要な知識を探究し続けるために」 高井ゆかり
 「博士論文を書くことを支えてくれたもの」 角田秋
 「研究のフィロソフィを固めた博士論文」 仲上豪二郎
 「博士論文執筆に取り組む過程で得たソーシャル・サポートと人生を豊かにする姿勢」 福井里美
 「臨床経験からの問いに立ち返り, 社会への還元を考え続けること」 三浦英恵
 「ニューマン・ブラクシス・リサーチに魅了され, 導かれて」 三次真理
 「プロジェクト研究だからこそ得られた学び」 森田久美子
 「研究者としての覚悟を決めた博士論文執筆」 山川みやえ
 「保健師としての経験を活かした博士論文」 山崎恭子
 「博士論文作成過程から得た力」 横山由美
 <増刊号特集>2. 研究者が育つ過程—海外にはばたく研究者になるために
 「日本学術振興会の特別研究員事業・海外特別研究員事業について—わが国の学術研究を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に向けて」 箕作康志
 「看護学研究発展のために—学術システム研究センター専門研究員の立場から」 西沢義子
 「海外特別研究員としての経験から学ぶこと—若手研究者・看護系ポスドクのこれまでの歩みとめざすもの」 加藤尚子
 「指導教員として研究者が育つ道をどのように創っていくか」 数間恵子
-
- 5 特集「知的財産としての看護研究—研究成果の特許化」
 「知的財産としての看護研究—看護研究の特許化を中心に」 佐々木明子, 田沼寮子
 「大学等学術研究機関における産学連携活動・知的財産活動の必要性」 飯田香緒里
 「研究成果の保護・活用—東京医科歯科大学の知的財産管理体制を踏まえて」 渡辺公義
 「看護研究における産学連携・知的財産活動事例」 網中裕一
-
- 6 特集「看護ケアプログラムの体系化に向けて—看護研究と行動分析学」
 「看護ケアプログラムの開発—行動分析学の視点から」 鎌倉やよい
 「「看護すること(nursing)」を支援する学としての行動分析学—随伴性のアレンジによる行動変容」 坂上貴之
 「実験的研究法としてのシングルケースデザイン」 石井拓
 「臨床看護におけるシングルケース研究法の意義—先行研究の概観を通して」 飛田伊都子
 研究「1. 心臓手術後リハビリテーションにおける運動の自律的調整」 廣島香代子, 鎌倉やよい, 深田順子, 梶原智代美, 松浦昭雄
 研究「2. 保育園児への歌を用いた手洗い指導プログラムの効果」 山内三帆, 鎌倉やよい, 深田順子
-
- 7 特集「看護を語る看護を創る」
 「「実践を語ること」と「捉えなおされた実践を語ること」—訪問看護師の家族支援と地域包括支援センター 3 職種の支援の 2 つの取り組みから」 河原智江
 「集中治療室看護師の実践の意味」 田代幸子
 「「うまくいかない」語りの意味—看護師が「難しい」と感じる障害児の家族とのかかわり」 山本美智代

- (47 巻) 7 「がん患者のエンド・オブ・ライフにおける認定看護師・専門看護師の看護実践の語り」 福井里美
 「急性期病棟での緩和ケア—みなでやりきった実践の意味」 守田美奈子
 「ケアと共感疲労—東日本大震災での救援体験をめぐる2人の看護師の語りから」 小宮敬子
 「日常の看護場面においてはたらく「手」の現象学的考察—語り直すことからみえてくるもの」 原澤純子
 「病院全体のバランスを見る—病棟看護師長の語りとその編成」 西村ユミ, 前田泰樹
-
- 2015 1 特集「看護研究から政策をうみだすために」
 (48 巻) 「A Preamble to Shaping Health Policy through Nursing Research」 Patricia A. Grady, Ada Sue Hinshaw
 翻訳「Shaping Health Policy through Nursing Research」に寄せて Patricia A. Grady, Ada Sue Hinshaw, 緒方泰子, 深堀浩樹
 「NINR とは何か? その歴史と看護研究における役割」 前田留美, 深堀浩樹, 丸光恵
 「政策につながる看護研究の動向と今後の展望—退院支援の研究を例に」 坂井志麻
 「政策につながる看護研究の実践—少子化社会における妊娠・出産・子育てにかかわる政策に向けた研究」 福島富士子
 「日本の看護系大学院における教育者・研究者の養成—看護学教育者, 研究者養成につながる行政官の活動例」 石橋みゆき
 インタビュー「看護学研究者に対する国会議員からの期待」 石田昌宏, 深堀浩樹
-
- 2 特集「遠隔看護とイノベーション—在宅医療の新展開」
 「遠隔看護の現在と在宅医療におけるその役割」 川口孝泰
 「遠隔看護の歴史と研究の変遷」 豊増佳子
 「遠隔看護におけるデバイス開発と応用例」 荒木大地, 浅野美礼, 川口孝泰
 「遠隔看護の取り組み事例—慢性疾患患者のサポート」 日向野香織, 柴山大賀, 林啓子, 川口孝泰
 「遠隔看護のクラウドベースでの実用化をめざして」 川口孝泰, 豊増佳子, 西山直美, 内藤隆宏
 「訪問看護における遠隔看護への期待」 林啓子
 「遠隔看護における情報教育の整備と看護師の役割」 内藤隆宏, 浅野美礼
-
- 3 特集「医療権力論—看護界・医療界はいま」
 「看護師は医療という権力装置の尖兵であるという自覚をもつべきである—医療権力論, revisited & reflected」 中木高夫
 「看護師の批判的思考を研究に活かすために—日本の質的看護研究における理論の活用可能性」 谷津裕子
 「生体肝移植ドナーの語りにもみる“健康体”という幻想」 永田明
 「助産師の語りにもみる“母乳育児推進”という権力装置」 濱田真由美
 「小児気管支喘息にまつわる言説と子どもの体験」 深谷基裕
 「“更年期”をめぐる言説に戸惑う女性たち」 新田真弓
-
- 4 増刊号特集「大学院で学ぶ意味—新たな看護を創るために」
 博士修了の立場から
 「大学院における研究のプロセスと学び」 内川洋子, 山田覚
 「臨床での経験と研究, そして研究結果を実践で活用するための研究へ」 菊地悦子, 酒井郁子
 「東日本大震災がきっかけとなった研究活動」 佐藤真理, 吉沢豊子
 「新たな知の創造」 山内朋子, 筒井真優美
 修士修了の立場から
 「リカバリー志向の共同意思決定 Shared Decision Making との出会い」 青木裕見, 萱間真美
 「大学院で学ぶことから展開する知識の応用と研究に対する自覚—修士論文の研究の進行過程を辿りながら」 新裕紀子, 中尾久子
 「看護研究から問題解決の方法を学ぶ」 藤原美保, 坂下玲子
 「“わからないこと”を考え続ける—その原点としての修士論文」 細野知子, 西村ユミ
 「人生に面白味を与えてくれた大学院」 三田村裕子, 金井 Pak 雅子
 「スタートライン—看護師が働きやすい環境を考え続けたい」 横山麻美, 山本則子
 「実践に根ざした知を創る」 吉行紀子, 河野あゆみ

- (48 巻) 5 特集「NP 教育の成果を探る—自律した Health Care Provider をめざして」
 「大学院修士課程における診療看護師(NP)養成教育と法制化」 藤内美保, 山西文子
 座談会「診療看護師(NP)の新たな発展をめざして—活動の成果とこれからのビジョン」 草間
 朋子, 村嶋幸代, 真田弘美, 深井照美
 「The Contributions of Research in the Development of Nurse Practitioners in the United
 States」 Jamesetta A. Newland
 〈NP のアウトカムとエビデンス〉①一般病院のケース
 「プライマリケア領域における周手術期アウトカム, 患者満足度, 看護師からの評価—診療看
 護師(NP)を導入して5年目の事例」 塩月成則, 藤内美保, 藤本響子, 甲斐かつ子, 宮内信治,
 小野剛志, 小寺隆元
 「診療看護師(JNP)の活動がもたらす影響—長崎医療センターでの臨床研修をととしての成
 果」 本田和也, 和泉泰衛
 「周術期領域における診療看護師(NP)の活動と成果」 吉田弘毅, 伊藤豊
 「チーム医療「急性期早期離床チーム」における診療看護師(NP)の役割」 平田尚子, 菊野隆明
 「消化器外科病棟における診療看護師(NP)の役割と成果」 飯野雅子, 鈴木英之
 ②在宅医療・訪問看護のケース
 「診療所における診療看護師(NP)の活動と成果」 長谷川健美, 山田顕士, 福田広美
 「訪問看護ステーションにおける診療看護師(NP)導入前後の実態調査—訪問看護関連報酬に焦
 点を当てて 光根美保, 守永里美, 藤内美保, 宮内信治, 阿南みと子, 財前博文
 ③介護老人保健施設, 重症心身障害児(者)施設等のケース
 「介護老人保健施設における診療看護師(NP)の活動成果」 廣瀬福美, 小野美喜, 小寺隆
 「重症心身障害児(者)施設における診療看護師(NP)の成果」 後藤愛, 高野政子, 佐藤圭右
 ④看護の視点からみたケース
 「高齢者医療施設における診療看護師(NP)の活動成果」 平野優, 町屋晴美
-
- 6 特集「現象学を語る」
 対談「現象学とグラウンデッド・セオリー」 西村ユミ, 山本則子
 ディスカッション「大学院生からみた現象学とグラウンデッド・セオリー—対談に参加し
 て」 西村ユミ, 山本則子, 坂井志織, 栩川綾子, 細野知子, 村上優子, 石井絢子, 城島華子,
 藤井文香, 齋藤凡, 西川美代
 対談・ディスカッションを終えて
 「対談からうまれた3つの「問い」」 西村ユミ
 「研究方法の垣根を越え, 「看護学の知」の山をめざす」 山本則子
 臨床実践の現象学会第1回大会大ラウンドテーブルディスカッション「一緒に『現象学する』より
 1. 現象のリアリティを記述する
 「現象を理解するための新たな視点や概念を抽出し, それを提案する」 西村ユミ
 「現象学的な質的研究の方法論」 村上靖彦
 2. 事象と現象学との関係性
 「現象学的な質的研究の多様性」 村上靖彦
 「エピソード研究で「現象学」を使う意味」 大塚類
 3. 質的研究の正当性
 「エピソード研究の妥当性とは何か」 大塚類
 「現象学的看護研究の立場から」 細野知子
 「研究の正当性とは何か」 萱間真美
-
- 7 特集「査読を考える—査読ガイドラインの構築に向けて」
 「論文の査読ガイドライン構築に向けて—誰のためのガイドラインか」 萱間真美
 座談会「査読ガイドラインの構築に向けて何が必要か」 小泉俊三, 法橋尚宏, 山本則子, 萱間
 真美
 海外の動向から考える
 翻訳「優れた研究のための触媒となる EQUATOR ネットワーク」 Iveta Simera
 翻訳「Journal of Nursing Education 査読者のためのガイドライン」
 英文誌／和文誌の査読から考える
 「Cancer Nursing 査読者としての経験から—投稿ガイドラインを中心に」 丸光恵
 「英文誌と和文誌の査読の経験から」 半澤節子

- (48 巻) 7 「投稿者・査読者・編集者の視点から査読ガイドラインの意義を考える」 江藤宏美
学会の動向から考える
「Japan Journal of Nursing Science 編集委員長としての経験に基づく査読に関する私見」 グ
レック美鈴
「日本看護学教育学会の査読の動向」 秋元典子
「『家族社会学研究』の査読システムと査読ガイドライン」 池岡義孝
査読を受けた経験をいま査読者としてどうかするか
「著者と査読者の相互作用」 西垣昌和
「論文査読に必要とされるものは何か」 跡上富美
「投稿経験から考える査読のプロセスと査読者の役割」 河野あゆみ
-
- 2016 1 特集「混合研究法が創る未来—第 1 回日本混合研究法学会学術大会より」
(49 巻) ワークショップ 1「混合研究法入門」 R. バーク・ジョンソン, マイク・D. フェターズ, 抱井
尚子
基調講演 3「看護における混合研究法の活用—世代間交流看護支援の研究を例に」 亀井智子
ワークショップ 3「混合研究法としてのグラウンデッドなテキストマイニング・アプロー
チ」 稲葉光行, 抱井尚子
パネルディスカッション 1「混合研究法をめぐる議論からみえてくるもの」 ベンジャミン・F.
クラブトリー, 抱井尚子, 亀井智子, マイク・D. フェターズ, 八田太一
-
- 2 特集「看護学の発展にとつての理論構築—Transitions Theory からの展望」
座談会「看護学の発展にとつての理論構築」 南裕子, 片田範子, 坂下玲子
「看護理論とその展開—Transitions Theory からの考察」 坂下玲子
概説「Transitions Theory / トランジション理論」 増野園恵
〈Dr. Afaf I. Meleis 講演「Disruptions : Then What?」より〉「Disruptions から始まる Transition
—関連概念と理論枠組みの理解」 岡田彩子
「For Future Development of Situation Specific Theories」 Eun-Ok Im
翻訳「状況特定理論の将来の発展のために」 Eun-Ok Im, 鈴木和代
〈Dr. Eun-Ok Im の論考を受けて〉「状況特定理論はどう構築されるのか—理論構築を具体的に
イメージするために」 小野博史, 坂下玲子
-
- 3 特集「看護におけるシステマティックレビュー」
「コクランにおけるシステマティックレビューの基礎—リスク・オブ・バイアスとメタアナリ
シス」 大田えりか
「質的研究のシステマティックレビューの現状と動向—JBI の取り組みから」 今野理恵
-
- 4 増刊号特集「看護と哲学—共同がもたらす新たな知」
「看護と哲学—看護と現象学の相互関係についての一考察」 榊原哲也
「補い合うことと考えること—ある看護師へのインタビューの分析から」 小林道太郎
「言葉を使って痛みを他人に伝えることはできるか—痛みの表現における発話行為と比喩の使
用についての考察」 池田喬
「哲学を学びながら臨床現場で働く」 三浦智美
「生きられたからだを描く—回復しつつある身体の実験から」 坂井志織
「慢性病者の経験の記述に関する一試論—“第二の人生”が主題となった語りを手がかり
に」 細野知子
「まわりの人との関係の中で「できる」ということ—現象学が見せてくれるもの」 村上優子
「インタビュー分析の言語学的基盤, 個別者の学としての現象学」 村上靖彦
「「そうではなくて」という思考のスタイル—現象学と看護研究の関係を捉え直す」 西村ユミ
-
- 5 特集「介入研究をどう進めるか」
「介入研究のこれまでとこれからの展望」 西垣昌和
「介入研究における研究計画立案のポイント」 奥村泰之
「介入研究の実施体制のマネジメント—計画立案時のロジスティクス構築の重要性」 竹原健二
「介入研究の道のり: 発案から臨床応用まで—背面開放座位とアロマセラピー研究の実績か
ら」 大久保暢子
「看護のエビデンスを大規模研究から構築するために—AMED の取り組みから」 関根小乃枝
-
- (49 巻) 6 特集「よい論文とは? おもしろい論文とは?」
座談会「よい論文とは? おもしろい論文とは?」 山本則子, 小松浩子, 秋元典子, グレック美鈴

- (49 巻) 6 「よい研究の基盤—実践における価値と背景にある知識を結びつける」 大西麻未
「よい論文は未来をデザインする」 落合亮太
「よい論文とは引用される論文である」 掛田崇寛
「定点から研究を続けることで見えてくる全体像—精神科訪問看護の研究から」 萱間真美
「関心をもつ現象に対して考える契機を与える論文」 グレッグ美鈴
「課題を解く研究」 坂下玲子
「素朴な疑問への答えを探し続けること」 心光世津子
「「他者との対話」がよい論文，おもしろい論文を創る」 辻村真由子
「思わず，うなずかされる」 西村ユミ
「エビデンスをつくり，人々の役に立つ研究をめざす」 福井小紀子
「何のための研究か，誰のための研究か」 松岡千代
「研究成果の普及に力を入れる」 宮下光令
「臨床看護で活用できる研究へのこだわり」 山勢博彰
「「研究上の問い」に対する答えを見つけるためのチャレンジ」 山本則子
論文のおもしろさ，よさはどこにあるのか？—社会を取り巻く現状と看護研究の課題」 吉野八重
-
- 7 特集「研究の意味—多領域との対話から」
「研究の意味—社会的価値，学術的意義，個人的意味」 八田太一
「ケアの実践のための研究はなぜ容易でないのか？」 島蘭進
「健康と医療の人類学」 道信良子
「生活モデルへの転換と看護職」 三井さよ
「臨床で働くお腹をくくった看護師にとっての，研究のもつ意味」 宮子あずさ
「哲学の意味と看護」 河野哲也
「看護研究が医師にとって意味あるものとなる場面」 藤沼康樹